

平成 25 年度「嶺南モデル事業補助金」の採択を決定しました

エネ研では、県が進めるエネルギー研究開発拠点化計画の「産業の創出・育成」の一環として、平成 18 年度から嶺南企業等を対象とした「嶺南地域新産業創出モデル事業」を実施しています。このたび、平成 25 年度事業として 7 件を採択し、補助金の交付を決定しました。

<基礎研究枠（1 件）>（補助限度額 200 万円/件）

（網掛けは嶺南企業）

テーマ名	事業者
チタン合金を用いた複雑形状機能部品のプレス成型技術の開発	植田工業(株)

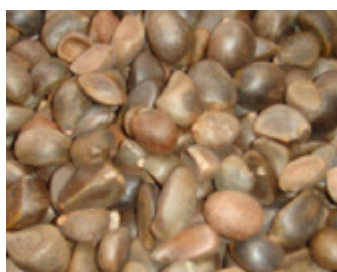
<実用化研究枠（6 件）>（補助限度額 600 万円/件）

テーマ名	事業者
放射線照射技術を活用した強化樹脂製品の開発	(有)ウチダプラスチック、 関西電子ビーム(株)
カシス果皮を加えた養殖飼料開発	小浜海産物(株)
原子力発電所に設置された制御弁の健全性を確認する試験装置の高性能化	(株)木内計測
塗箸一本塗り自動塗装機（箸先、頭両用）開発及び新規販路	(株)フナイワークス
自治体排出廃プラスチック再利用のための改質と用途開発	(株)ミヤゲン、関西電子ビーム(株)
さば速醸魚醤を活用した、魚の醤油一夜干しの研究開発及び販路開拓事業	(株)室次、(株)大澤五右衛門商店、 福井県立大学

エネ研では、今年度も引き続き、福井県内の産業界の皆さまをサポートしていきます。

<「嶺南モデル事業補助金」を利用した研究開発例>

椿油搾油後の残渣利用による化粧水の実用化研究（(株)タナカ[高浜町]）



わかさ椿の種子



搾油機



抽出後にフィルター濾過した椿油



椿油配合の製品

椿油を採るためにわかさ椿の種子を圧搾した後の搾り残滓から、油脂分を再抽出して回収し、新しい椿油の関連商品を開発したい。



アンケート調査等を踏まえ、40 歳代以上の男性層をターゲットにした保湿ローションを製品化した。

イオンビーム育種研究会の第9回大会が開催されました

平成25年5月27日、5月28日の2日間、当センターでイオンビーム育種研究会（事務局：日本原子力研究開発機構 高崎量子応用研究所）の第9回大会が開催されました。

同研究会は、イオンビームの生物影響に関する基礎研究を充実するとともに先進的な応用技術の開発を進め、バイオ産業の振興を図ることを目的に平成15年に結成されました。品種改良やそれに関わる基礎研究を行っている試験研究機関や企業、大学が参加し、育種の方法や結果、イオンビームの生物効果に関する情報交換が行われています。当センターは、品種改良の目的でイオンビームを照射できる全国に4箇所しかない加速器施設の一つとして、研究会発足時から参加し、平成24・25年度は、エネ研の研究開発部の高城主任研究員が同研究会の会長を務めています。

第5回大会に次いで当センターでの2回目の開催となった今回は、全国から58名が参加し、植物や、真菌類(カビ・キノコ類)、細菌、動物培養細胞などの品種改良の成果や、イオンビームが生物にもたらす影響について、13件の発表がありました。

大会1日目は、高城会長、エネ研の辻研究開発部長挨拶の後、第1セッションでは、福井県で行われている様々なイオンビーム育種をテーマに、福井大学・大学院工学研究科の寺田先生及び櫻井先生、福井県立大学・生物資源学部の木元先生の発表がありました。

続いて、福井県立大学・生物資源学部の村井先生による、コムギの品種改良に関する特別講演が行われました。また、第2セッションでは、植物の品種改良をテーマに、エネ研の研究開発部の畑下主任研究員が、植物工場用レタスや、施設栽培用ミディトマトの品種改良についての発表を行いました。

大会2日目は、イオンビーム生物効果の基礎研究に関するセッションと、真菌類、緑藻類に関するセッションが行われました。

2日間にわたり活発な議論が行われた後、当センターの加速器を中心とした施設見学が行われ、盛況裡に大会は終了しました。



畑下主任研究員による発表



加速器見学の様子

平成25年度福井県技量認定講習・試験を実施します

平成25年度の第1回講習・試験は、以下の日程で実施します。なお、今年度より受験料3,000円をご負担いただくこととなりました。ご理解いただきますようお願いいたします。

名称	日程
あと施工アンカー作業	8/1（敦賀）、8/2（高浜）
配管締付継手作業	8/8（高浜）、8/9（敦賀）

※電線結線・端末処理作業
は1月に開催予定です

<お問い合わせ先>

福井県国際原子力人材育成センター 国内人材育成グループ 濱田、山田
電話 0770-24-7274（直通） FAX 0770-24-7278 E-mail jinzai@werc.or.jp

